



ニュースリリース：

ミャンマーの2校に広島在住の販売員名を命名

2020. 7. 8

エルセラーン1%クラブ

ミャンマーに建設された2つの学校に今月、広島県在住のエルセラーン化粧品（本社・大阪）の販売員名が付けられました。無償の学校建設支援事業でエルセラーングループが建設した学校は合わせて10カ国で合計187校となりました。

学校建設事業は、エルセラーン1%クラブ（資料メモ参照）が2008年から推し進めています。今回分を含めて、ネパール72校▽ラオス34校▽ベトナム25校▽カンボジア19校▽バングラデシュ17校▽ミャンマー8校▽スリランカ4校▽タンザニア4校▽インド2校▽アフガニスタン2校が建設されました。

今回、命名されたのはミャンマー中部バゴ管区にあるヤダナボン寺院学校と、セイタトゥカ寺院学校で、「公益社団法人シャンティ国際ボランティア会」（本部・東京）との共同事業です。

ヤダナボン寺院学校の新校舎（6教室）は、今回の支援活動の中心となった販売員で広島県尾道市に住む小原佳枝さんにちなみ「小原小学校」と名付けられました。この寺院学校の生徒数は幼稚園～中学校の合計約500人で、うち幼稚園と小学校1～3年生の約240人が新校舎を使っています。以前の教室は地面に板を敷いただけで雨風の影響を受けやすく、窓も小さくて薄暗い学習環境でした。また教室数が足りず、宗教ホールも授業に使っていました。

小原さんは「うれしい。開校式に早く行けたらいいですね」と話しています。

セイタトゥカ寺院学校の新校舎（6教室）は、今回の支援活動の中心となった販売員で広島県府中市に住む内田公子さんにちなみ「内田小学校」と名付けられました。この寺院学校の生徒数は幼稚園～中学校の計約380人で、うち幼稚園と小学校1～4年生の約270人が新校舎を使い始めました。

内田公子さんは「子供たちに会える日を楽しみにしています」と話しています。

ミャンマーでは新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月半ばからすべての学校が閉鎖されていますが、地元紙ミャンマー・タイムズは5月26日付で「教育大臣が7月21日から全国の高校、その2週間後に中学校と小学校での休校措置を解除し、授業を再開させる方針を明らかにした」と伝えています。

関連写真はデータで送信可能です。

2枚目に資料メモ

この情報のお問い合わせ・取材は下記までお願いいたします。

エルセラーン化粧品広報部 辻野

電話06-6367-0705

Email: [tsujino@elsereine.jp](mailto:tsujino@elsereine.jp)

## 資料メモ

**エルセラーン1%クラブ** 自然派化粧品を販売するエルセラーン化粧品株式会社(本社・大阪市、糸谷沙恵子社長)がボランティア事業をおこなうため、販売代理店の方たちと1983年に設立した任意団体。販売代理店の利益の一部と社員らの寄付が原資。1,000校を目標とする学校建設事業のほかに、日本国内で震災や豪雨の被災者支援、歳末助け合いへの寄付などのボランティア活動を続けています。

**公益社団法人シャンティ国際ボランティア会(SVA)** 1981年に設立し、カンボジア難民支援やタイのスラムで職業訓練支援などを開始。その後、教育・文化支援を中心に活動地域もラオス、ミャンマー、アフガニスタン、ネパールへと拡大しています。特に学校教育事業や図書館運営事業、絵本・紙芝居の出版・配布活動に力を注いでいます。

**ミャンマーの教育状況** 小学校の純就学率は全国平均で86%(2016年12月時点)ですが、5年間の小学校課程を卒業した子どもの割合は全体の68%に留まっています。兄弟姉妹の世話や家事、農作業の手伝いを含め、昼間に働かざるを得ない子どもが多く、就学率低迷の原因となっています。中学校の純就学率は64%とさらに低く、この傾向は公立学校だけでなく多くの貧困層の子どもたちが通う寺院学校でも同様です。

ミャンマーの寺院学校の歴史は11世紀に遡るといわれています。主として修行僧への宗教教育の場として機能していた一方で、一般大衆に読み書きを教える場としても機能していました。公立学校では学費や教科書は無償ですが、現実には試験前の補習代が徴収されたり、文具代や制服代を負担したりすることもあります。寺院学校は完全無償であり、孤児院を兼ねた寺院学校においては寄宿している全生徒の生活費も学校側が負担しています。寺院学校は全国に1,538校(2015~2016年)あり、26.4万名の生徒が在籍しており、近年は政府のカリキュラムを受け入れながら、公教育を受けられない社会的弱者のためのセーフティネットとしての役割を担っています。(SVAの資料より抜粋)

## 学校建設地域の識字率 (出典: UNESCO UIS. Stat)

国名	若年層 (15~24歳)		成人層 (25~64歳)		高齢者層 (65歳以上)	
	比率 (%)	調査年	比率 (%)	調査年	比率 (%)	調査年
アフガニスタン	65.4	2018	30.5	2018	13.3	2018
バングラデシュ	93.3	2018	69.8	2018	40.1	2018
カンボジア	92.2	2015	77.9	2015	53.1	2015
インド	91.7	2018	71.6	2018	45.4	2018
ラオス	92.5	2015	83.5	2015	58.6	2015
ミャンマー	84.8	2016	75.3	2016	58.2	2016
ネパール	92.4	2018	60.7	2018	23.6	2018
スリランカ	98.8	2018	92.5	2018	79.1	2018
ベトナム	98.4	2018	95.3	2018	85.8	2018
タンザニア	85.8	2015	77.9	2015	43.5	2015
世界平均	91.7	2018	86.3	2018	76.28	2018

以上